

『大乘起信論』は何を語るのかー「衆生心」を読み解くー

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
横田 幹夫

本論文において、大乘起信論を何故読んでいこうとしたのか、何をきっかけとしたのかを問うたのが序論である。司法の中の調停実務の体験において、如何に人々が苦悩しているのか、この苦悩はそもそもどうして起こるのか、果たして苦悩は取り除くことができるのか、どうすれば平穏な毎日を過ごせるのか等々体験を通じて考えてきた。仏教という中に心の構造、或いはダライ・ラマ 14 世が近書『空の智慧、科学のこころ』において「…私たちの心の仕組みを非常に詳しく、そして明らかに説明している仏教の教えは、まるで心の地図のようなものだといえるでしょう。これを私たちは仏教の心理学と読んでいます。」と述べていることから、「心の地図」を解明しようとしてきたところに本研究のテーマがある。このように筆者は心の構造、或いは心の地図を明らかにする一つの代表的で、非常に古くから過去様々な人々が理解し、解説してきた大乘起信論を歴史的に振り返り、一体何を我々に訴え続けてきたかを問うたのが、本論文の骨格であり本質なのである。

大乘仏教という視点で、歴史的に釈迦から始まり、小乗仏教、アビダルマ仏教等、大乘仏教のルーツを尋ね、その真理を論述していくのである。又 唯識・中観等仏教の哲学的見解を論じている。尚 四聖諦も重要な仏教の教義である。

人間の心には真如と生滅という二心がある。鈴木大拙は、「絶対的真如であるはずの心が一体どうして条件付きの真如になるのか、これこそが我々に課せられた問題の中で最も重大なものである。何故真如と無明・無知が対決されなければならないのか。」と述べている。このように人は生あるかぎり、真如と無明が円環論的に交錯するのである。

このような人間の心こそが「大乘起信論」にいう「衆生心」なのである。一心・二門・三大によって大乘を示し、これを衆生心という。マハーヤーナといい「摩訶衍」の音訳である。その大乘を開けば、法と義となる。

第 4 章において、勝又俊教博士が『密教の日本的展開』の中で「…仏教の究極の方向性は、衆生心は発心を起こし信仰することによって菩提心に気づき、そのことによって即身成仏することが、密教の根底にあるといえる。そしてその根底とは、マンダラの宇宙と自心の源底につながっているのである。」と述べる。つまり衆生心は発心し、菩提心から宇宙へ、自心の仏性に至るというのである。そしてそれが、この世界に菩薩として立ち顕れる「如実知自身」へと連なっているのであると筆者は結論付けるのである。

お釈迦さまがある人に、「この世の中を支配している主人は誰ですか?」と聞かれたとき、このように答えました。「Cittena niyati loko」和訳すると「心が衆生を導く、衆生は心に導かれる」という意味である。{アルボムッレ・スマナサーラ著『心は病気』(サンガ新書、2006 年)}

よって、揺れ動く衆生心は菩薩への道を求めることであり、我々はその道を求めて生き続けなければならないのだと考えたい。